

国際ロータリー会長：バリー・ラシン

「インスピレーションになろう」

第2560地区ガバナー：川瀬 康裕

「自らのストーリーを作りましょう」

会長：高橋研一

「将来みんなのためになること

これからのロータリーのために

力を込めて課題にチャレンジしよう！」

幹事：松山浩仁

SAA：外山裕一

三條北ロータリークラブ週報

例会日2019. 5. 14 累計No.1547 当年No.41

例会日：火曜日 12:30～13:30

例会場：三條ロイヤルホテルTel34-8111

事務局：三條市本町3-5-25 三條ロイヤルホテル内

TEL 0256-35-7160 FAX 0256-35-7488

HP：http://www.sanjo-nrc.org

本日の行事：

「地区研修・協議会」報告会

- ◆本日の出席：60名中29名
- ◆先々週の出席率：58名中50名 86.21%
(前年同期 81.54%)
- ◆4月の出席状況：会員数58名・例会数4回
平均出席率 78.01%
前年同月 83.33%
- ◆先週のメイクアップ(敬称略)
11日 地区研修・協議会 外山裕一、羽賀一真
福岡信行、落合益夫、田口実仁佳
森宏、渋谷義徳、高橋研一、早川瀧雄
齋藤孝之輔、石黒隆夫、松山浩仁

* 本日の配布書類等

- ・週報No.1546
- ・ガバナー月信5月号(閲覧)

アクト・アーリーアクトについてですが、インターアクトクラブは12歳から18歳までの若者、日本で言えば中・高校生を対象とした奉仕クラブ、ローターアクトクラブは18歳から30歳までの青少年で男女を問わず、アーリーアクトクラブは小学生を対象とするすべてのクラブで、年会費は不要になりました。このねらいはこれから伸びる我らの後継者に奉仕を継承し、若い時から奉仕の筋金を入れていけば、より良い社会を作るために一層役立つとのこと。それでは松下幸之助氏の第10話は、昭和27年、57歳の時オランダのフィリップス社との提携について話します。当時日本にはアメリカの技術はどんどん入ってきていたが、ヨーロッパの技術は比較的少ない。しかしながら、日本全体の科学工業をみた場合、ヨーロッパの技術は、日本の技術の発展にとって欠かせないのではないかと。そうしたことも考えて、私はフィリップス社との提携が“日本人向きの技術であり、日本人のこれからの繁栄に必ず役立つ”と判断して、早急に交渉をまとめるように指示した。

日本経済新聞社編 松下幸之助著「私の履歴書」

幹事報告：松山 浩仁 幹事

- ・新保副ガバナーより「大島精次パストガバナーお別れの会のご案内」
平成31年4月19日に逝去され、告別式はご親族により執り行われました。
上越ケーブルビジョン(株)「お別れの会」
日時：5月28日(火) 10:30～12:00 会場：デュオ・セレッソ

会長挨拶：高橋 研一 会長



皆さん、こんにちは。本日5月14日(火)当年41回目の挨拶は、先週7日の入会式の10&3の事で、私なりに調べ、宮川君・中山君に説明しました。私が、一部のクラブ及び新潟南RCロータリー財団委員会副委員長に聞きましたところ、新会員入会式の時に特別に寄付はお願いしては無く、解らないと言われました。「ロータリー入門書」の中に「いかなる寄付集めも特別の努力と工夫が必要です。まず新入会員があったとき、1名について10ドルを寄付する習慣がありますが、そのとき在来の会員もお付き合いに10ドルずつ拠出する習慣の活用、あるいはニコニコボックスに準じた「財団ボックス」を用意し、臨時拠出するなど、日常的な努力が必要です。これは会員にロータリー財団を理解させるPRのチャンスでもあります。」と書かれています。新会員の30ドルの寄附は疑問を感じました。

ある会員に聞かれたインターアクト・ローター



- ・新保副ガバナーより「川瀬／新保年度慰労会のご案内」
日時：6月29日(土) 16:00～18:00 会場：ホテルオークラ新潟
- ・大谷ガバナーエレクトより「地区研修・協議会の御礼」
- ・大谷ガバナーエレクトより「インターアクト年次大会のご案内」
日時：7月13日(土)～14日(日) 会場：割烹の宿 湖畔
- ・地区事務所より、ロータリーの友事務所記事投稿の依頼
7月号から「友愛の広場」内に「私の宝物」がスタート。投稿希望は雑誌委員会または事務局まで。
- ・阿賀野川ラインRCより、創立20周年記念式典ご臨席の御礼
- ・三条ローターアクトクラブより「6月第一例会」のご案内
日時：6月13日(木) 19:30～21:00頃 会場：三条・燕地域リサーチ4階 異業種交流室
- ・三条市青少年健全育成市民大会より、令和元年度協力の依頼
- ・にいがた緑の百年物語緑化推進委員会より定時総会開催についての案内
日時：6月14日(金)13:10～15:00 会場：新潟県自治会館 講堂

ロータリー財団ボックス：14日現在累計 270,000

米山 忠俊君 財団BOXに協力。
今井 克義君 〃
渡辺 徹君 〃



米山奨学ボックス：14日現在累計1,329,000円

羽賀 一真君 5/11(土)地区協の参加者のみなさん、長い長い昼間の研修と、短い短い夕方の懇親会。大変お疲れ様でした！
吉田 文彦君 米山に協力。
高橋 彰雄君 協力致します。
森 宏君 引続き、ご協力宜しくお願い致します。



スマイルボックス：14日現在累計 866,000

本間建雄美君 地区協出席、御苦労様でした。
石川 友意君 地区協議会報告の皆さん、卓話ご苦労様です。
森 宏君 地区研修・協議会の懇親会は短かったですが、三条に来てからが長かったです。
落合 益夫君 今日、森先生の所でMRIの検査を受けました。先生から詳細な説明をいただき、安心しました。
佐藤 秀一君 ニコニコ協力です。
田口実仁佳君 〃
外山 裕一君 〃



本日の行事：「地区研修・協議会」報告会



外山裕一 会長エレクト
先週の土曜日の地区研修・協議会に参加させていただきました。PETSの時と内容的には被る部分もありましたが、変わった点だけを報告させていただきます。

まず、ガバナー公式訪問の件ですが、公式訪問前にはガバナー補佐の訪問があり、ガバナー補

佐エレクト、ガバナー補佐ノミニーも参加ということで今回初めて発表されました。この2560地区だけではなく、国際ロータリーの方針ということで動き始めたそうです。実際の所、日程等の調整も含め難しいところはたくさんあります。補佐の予定は過密で、要望通りの日程となるかどうかわかりません。これからの見通しも全く決まっていない状態です。また、そのガバナー補佐ノミニーは、私の年度で選出し活動し

なければならぬということです。懇親会の時に三本ガバナー補佐にお聞きした所、今日言われたばかりで、何も決まっていな中動き出す状態だと話されていました。

次に、世界的な問題でもありますが、ロータリーの会員が年々減少しているという話がグラフで説明されました。ファイヤーサイドミーティング(家庭会合)の時に資料を見ながら説明させていただきます。我がクラブも先日2名の入会がありましたので60名ではありますが、これからも増やしていかないと、運営面でもきついのがあります。2560地区では地区の数値目標として5%純増を目指しています。私の年度も、純増3名を掲げ活動していきたいと思っております。



羽賀 一真 幹事エレクト (第1セッション)

次年度クラブ幹事の羽賀一真です。報告します。

三条市役所前に朝8:00集合で、三条市内4クラブ合同バスに乗

り込み、上越市のデュオセレッソに向けて予定通り出発しました。50人乗りの大型バスがほぼ満席の状態でした。途中、米山SAで休憩を取ったのですが、同じ新潟方面から来る他のロータリーのバスが3台ほどでしょうか、ちょうど一緒に、周りの人から見ると、いったい何の団体様だろう、というように見えたかもしれません。

9:30過ぎに会場に到着し、第7分区のロータリアンの皆さんから、温かい拍手で迎えていただき、受付しました。

まず、大谷ガバナーエレクトからの研修開始のごあいさつの時に、「この靴下だけは自慢したい」とおっしゃり、遠目で見えなかったのですが、国際ロータリーのマークの入った靴下をお披露目されたようです。

午前中は出席者全員合同で、講師役のかたも変わり、基調講演「いま、なぜ公共イメージと認知度の向上か」という演題で研修を受けました。趣旨は、やはり何と言っても、昔に比べるとロータリーの会員減少が深刻であり、会員増強が急務であるからとのことです。昔はロータリーに入会するだけでステータスという世間の認知があった時代もあったとのことです。今は、なかなかそうもいなくなってきたかもしれないので、改めて、公共に対しイメージと認知度の向上させなければならぬことを強調されていました。心掛けるべきことは、「持続可能、変化、行動」です。ダーウィンの進化論の有名な言葉で、地上の生物は、もっとも強いものが生き残るのではなく、もっとも環境の変化に対応

できたものが生き残る、ということです。最近、ロータリーの会員減少だけではなく、我々が経営されている会社も慢性的な人手不足です。ロータリーも、会社での人材集めも、きっと同様のことが言える、つまり、ただ大きくて強いだけでは生き残れなくて、変化していく行動が持続可能な会社やロータリーが生き残れるということなのではないでしょうか？

昼食後、午後からは各クラブの委員長が委員会で分類される5つのセッションに分かれて研修が行われました。我々クラブ会長と幹事エレクトは第1セッションなので、引き続き同じ研修場で、午前とほぼ同じテーマである会員増強についての研修でした。会員は、ただ増やすだけではだめで、言うまでもなく退会防止しないと、穴のあいたバケツになってしまいます。何か説得力を持たないといけません。そこで、ロータリーとは何か、ロータリーは他の団体とどこが違うのか、ロータリーはなぜ必要か、などを常に各自で考えてほしいとのこと。人間はストーリーから学ぶので、表やグラフの数字だけでは説得力に欠けるし、また、成功例だけで話してもだめ、こんな苦勞をしたから今があるのです、という、ひとつの説得術として例えばこのように振り子の原理もひとつの方法ですということでした。

何度か、大谷ガバナーエレクトが講師や報告者として、壇上に上がられました。先日、シカゴで開催された国際ロータリーの規定審議会で、100%出席を目指す人など向けに、メイクアップの緩和条件や、入会者の同業者条件の見直しなどが諮られ、英語の議事録を、日本語などの多言語に翻訳されて配信されているので、必要な人は議事録を閲覧するようにとのことです。

また、すでに案内のある通り、次年度は、ガバナー公式訪問は基本的には各3クラブほどの合同で行ない、その後の協議会にはガバナーは出席せず、各分区のガバナー補佐が行なうようにとのお願いがありました。この手法にはもちろん賛否あるようですが、これは決して2560地区だけではなく、国際ロータリー全体のガバナーのなり手がいなくなっている厳しい現実があるために行なう試みなので、研修プログラム最後のバスターガバナーからの講評でも、ぜひ理解し協力してくださいと言葉がありました。ということで、我々もそれに沿ってガバナー公式訪問を設営することになると思います。

夕方の懇親会の開始前に歓迎の演奏会がありました。津軽三味線の有名な双子姉妹と父親の歓迎演奏は非常に良かったです。何かの機会に去年の二胡演奏会の時のように我々もお招きして聞く価値はあると思います。

そのあと、上越名物の料理の紹介がされ、乾杯のあと懇親会となりましたが、我々のような遠方からのバス組は、16:45の乾杯後わずか30分後の17:15に帰りのバスに集合出発です、と三条市内の幹事代表から集合がかかったので、飲み足りない人は三条に戻ってからの二次会三次会のほうで長く楽しんだかもしれません(笑)

地区協参加者のみなさん、お疲れ様でした。以上で第1セッションの報告を終わります。



森 宏 次年度社会奉仕委員長 (第2セッション)

職業奉仕・親睦活動委員会、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会の各委員長から方針の説明がありました。

職業奉仕委員長は、「四つのテスト」を改めて問い直すことが必要な時代ではないか、職業“奉仕”という言葉が、原語である Vocational Service の内容を正確に表していない、原義は“自らの天職を通じて、人の為になる行為(サービス)を行うこと”である、と述べ、その理念の理解を深め、先駆者の事例を学び、各ロータリアンの職業とクラブ運営に生かすための、「職業奉仕」啓発ツールを作成し、配付する予定とのことです。

それに対しアドバイザーの田中政春パストガバナーは、pragmatism 的に考えれば、実は自らの会社が生き残ることが大事で、そういう意味で「四つのテスト」は見直さなければならないのではないのでしょうか、と斬新なご意見を述べられておりました。

社会奉仕委員長は、何を言いたいのかさっぱり分からない内容で、要領がつかめず、報告することはありません。

国際奉仕委員長からは、2019年8月31日上越市にて開催予定の国際奉仕フォーラム、ならびに2020年6月6日-10日のロータリー国際大会がハワイ・ホノルルで開催されるのですが、ホノルル滞在は高いので、2560地区としては、成田から直接ハワイ島に飛んで宿泊し、そこから大会会場のオアフ島に行き来する7日間、あるいは5日間の格安プランの案内がありました。



高橋 研一 次年度副会長

(R財団委員長代理出席)
(第4セッション)

地区研修・協議会のロータリー財団委員会が2019年5月11日(土)高揚荘3Fサクラの間、13:

00~14:30で行われました。2019-20年度の地区ロータリー財団委員長の新保清久様の挨拶で始まり、8名の財団委員の各項目説明がありました。2019-20年度の1人当たりの寄付金の

目標は年次寄付150ドルポリオプラス30ドル。なぜ皆さん寄付しなければいけないのでしょうか。それは世界の子供の健康、ポリオ撲滅、国際問題、平和、紛争解決そして皆様が世界に良い事をしよう。2019年にロータリー財団の設立102周年を迎えました。財団が奉仕の2世紀目に行うための未来の夢計画を立案しました。財団の誕生は1917年アーチクラウン会長が当時26ドル余ったお金をどうしようかと考えた結果、寄付に思いつき始まったそうです。皆様からのご寄付は世界各地で奉仕活動に役立っています。

「地区補助金」について、1~10の項目

これだけは知っておきたい!

1. 地区補助金利用のため地区財団セミナー・資金管理セミナーに出席すること
2. MOU(覚書)をクラブ会長から地区財団委員会に提出すること
3. 地区補助金は、各クラブの奉仕活動を支援するもので、お金、物品を奉仕の名のもと直接寄付することは、地区補助金の対象としない
4. 予算の30%以上を各クラブの負担とする
5. 地区補助金は、公的な性格を帯びる資金であるため、基本的な考え方として、高潔性が求められる
6. 地区補助金は、特定のクラブ、特定の会員の利益に繋がるものであってはならない(利害の対立)
7. 地区補助金は、飲食並びにこれに類することに使うことは認められない
8. 地区補助金は、説明できる領収書を保管して、監査を受けることになる
9. 財団への寄附額ゼロのクラブは地区補助金を認められない(奨学生の推薦も同様)
10. 地区補助金は、財団の承認前の経費は認められない(年度外の経費も同様)

以上最後になりますが、財団の内容はとても難しいそうです。財団委員の方を卓話にお呼びしましょう。喜んで来てくれるそうです。終わります。

